



米国のナノテク戦略発案者

米ライス大学のスマーリー教授は、ナノテクノロジー(超微細技術)のスター研究者だった。炭素原子がサッカーボールのように結合した分子「C₆₀」を一九八五年に

リチャード・スマーリーさん
(ノーベル化学賞学者)

発見し、そのユニークな形状は世界を驚かせた。一九六〇年代には他の研究者とともにノーベル化学賞を受賞した。

「C₆₀」などの炭素分子「フラー・レン」はナノテクを代表する材料となつた。世界中の大学や企業がフラー・レンを使った新素材の開発や医療分野への応用研究に取り組んでいる。もう一つのナノテク素

材「カーボンナノチューブ(筒状炭素分子)」で研究に取り組んだまなブも業績を上げた。スマーリー教授が考案した製造法で非常に良質なナノチュー^bブが量産できるようになり、教授が設立したベンチャーカーの製品が国際的に流通している。

弟子の丸山茂夫東京大学教授は「スマーリー教授は「スマーリー教授はその戦略発案のいわば張本人に近い存在だった」と話す。

腫瘍という血液のがんと激しい闘いを繰り広げた。亡くなる前日まで病室でクリントン大統領(当時)研究の話をしていたといふ。「ようやく先生と研究を強力に推進する「国研究で戦えると思ったの家ナノテク戦略」を発表に」と丸山教授はその早

く死を悼む。

(10月28日没
62歳)